



【学校教育目標】「人間性豊かな心を持ち 実践力のある生徒の育成」
— 気付き、生かす —

若松中だより

千葉市立若松中学校
校報
第 72 号
令和 4年 3月14日

第41回卒業証書授与式を挙行了しました

校長 古市 直彦

3月11日(金)、本校の第41回卒業証書授与式を無事に行うことができました。今年の卒業式も在校生や来賓の方の参列はできませんでしたが、前日、1・2年生は、式場づくりやその周辺の環境整備、3年生の各教室の飾り付け等を心を込めて準備してくれていました。そして、その思いは、確実に卒業生に伝わっていたように感じます。私の式辞と卒業生代表別れの言葉の内容を紹介いたします。式に参列できなかった皆様に、少しでも雰囲気を感じていただけたらと思います。

卒業式 式辞

「It's a piece of cake. (楽勝だよ。任せろ)」そう言って、頑張っほしい。

以前、集会で、そう話したことがあります、そんなに簡単な中学校3年間ではなかったと思います。

卒業生の皆さんが若松中学校に入学したのは、平成最後の一ヶ月となった3年前の4月でした。

時代が「平成」から「令和」に遷り、明日への希望と共に大きく花を咲かせていきたいと願っていたと思いますが、台風15号の被害や、新型コロナウイルスの感染拡大により、学校が休校になるという試練が皆さんを待ち構えていました。三ヶ月にも及んだ休校が明けても、分散登校や、新しい様式での学校生活が余儀なくされ、夏休みも16日間という異例の短さとなり、市総体や各種コンクールも実施できませんでした。さらに、皆さんの自然教室も中止に。自然教室は、例年、卒業文集の題材に取り上げる人がかなり多く、とても思い出に残るはずの行事なのですが、連れて行ってあげることができませんでした。3年生になってもコロナ禍は続きました。可能な限り、通常の学校生活を送らせてあげたい。できる限り行事も体験させてあげたいと、体育祭は、県の総合陸上競技場で実施しましたが、合唱コンクールは実施できませんでした。修学旅行に行かせてあげられたのも、つい先週のことでした。

「なんで自分たちは…」と不満に思ったこともあったでしょう。「もっとこんなことをしたいのに…」と不安に思ったこともあったでしょう。若松中学校での生活は、皆さんにとって、良き思い出となったのでしょうか。学校は、皆さんに十分なことをしてあげられたのでしょうか。自責の念に絶えません。

それでも、平静を装い、「日常を思い出に」と我慢の中学校生活を送り続けてくれた卒業生の皆さん。本当に立派でした。

「令和」という元号には、「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つように…」という願いが込められています。皆さんは、心を寄せ合い、まさに「一致暖結」して「若松中」という文化を築いてくれましたね。その背中で若中生のあるべき姿を下級生に示してくれました。ありがとう。

そんな皆さんと、今日ここに、本校第41回卒業証書授与式を挙行できますことを、本当に嬉しく思っています。卒業生の皆さん、卒業おめでとう。

でも、今日は、皆さんにとってのゴールではなく、新しいスタートの日です。これから皆さんが歩いて行く道にも、きっと数多くの試練が待ち構えていることでしょう。でも、コロナ禍の中学校生活を耐え抜いた皆さんなら、この先、どんなことがあっても、きっと若松中での経験を生かし、頑張ってくれることと信じ、期待しています。

「Is it a piece of cake? (楽勝ですよ。任せて大丈夫ですよね)」

さて、保護者の皆様、本日は、お子様のご卒業、誠にありがとうございます。立派に成長し、新しい生活に向かう輝かしい前途を心より祝福申し上げます。

私達、教職員一同、微力ながらも、精一杯お子様の教育に携わってまいりましたが、十分でなかった点もあったかと思ひます。今日の日を迎えることができましたのも、ひとえに保護者の皆様方の、温かいご協力があったからこそと思っております。心より、感謝申し上げます。ありがとうございました。

密を避けるために、ここに、職員一同が揃うことはできていません。ご来賓の方々にも参加をご遠慮いただき、在校生にも、我慢してもらっています。でも、「一致暖結」。心は今ここにあります。卒業生の皆さん。若松中学校は、ずっと皆さんの母校であり、皆さんを応援し続けています。卒業する皆さんの前途が幸せに満ちていることを心から祈り、私の式辞といたします。

(千葉市立若松中学校 校長 古市 直彦)



別れの言葉

- M** 暖かな陽の光が、私達の門出を祝福してくれているかのような、穏やかな季節となりました。
- I** 今日、私たち199名は、この思い出多き若松中学校を卒業します。
- M** 今日の卒業式に参列していない在校生、先生方、地域の皆様、そして私たちの家族。多くの方々の準備や支えがあって、この式が行われていることに心から感謝申し上げます。
- I** 今から3年前、私たちは新しい環境への期待と不安を胸に、この若松中学校に入学しました。初めてのことでばかりで緊張していた私達でしたが、学年で「一致暖結」して活動する中で、仲間との絆を深めることができました。委員会活動や部活動では、頼もしい先輩方の姿があり、慣れない学校生活の様々な場面で助けてもらったことを思い出します。
- M** そんな、カッコいい先輩になりたいと思い始めたとき、私たちは突然の休校を告げられました。その後も、新型コロナウイルス感染の勢いは決して収まることは無く、むしろ私たちの想像を上回るばかりで、あっという間に私たちの青春を奪っていきました。
- I** 学校生活が再開しても、それまでとは違った、全く新しい学校生活。多くの人が楽しみにしていた自然教室の中止。生徒会活動や部活動、普段の学校生活においても多くの制限があり、思うように活動できない期間が長く続きました。
- M** 特に、3年生からバトンを受けついで活動の中心となっていくと、気合いを入れていた生徒会活動や部活動は、大幅に活動が減少し、有り余る力をどこに向ければ良いのか、何を目標とすれば良いのかわからず、頭を悩ませ、時には不安やいらだちといった感情がどうにもできなくなることもありました。
- I** しかし、そのような中でも、「今、自分にできること」を考え、仲間たちとの青春を取り戻すべく、誠心誠意、取り組んできました。声を出さないように手作りのうちわを使って応援した体育祭。十分に距離をとり、感染対策を徹底して行った合唱コンクール。テレビ放送を使った集会などは、どれも印象に残っています。
- M** 困難な状況下でも、一日一日を大切に、目の前のことを前向きに取り組んだことで短くなってしまった仲間との時間を、より充実したものにすることができました。
- I** そして迎えた3年生。新型コロナウイルスの猛威は収まることはありませんでしたが、2年生の時の経験を生かし、委員会や部活動では後輩たちを工夫しながらリードすることができました。今日、この場で晴れ姿を見せることはかかないませんでした。私たちの思いのこもったバトンは、後輩たちへつなぐことができたはずです。
- M** 合唱コンクールや長野・山梨への修学旅行は実現できませんでしたが、それでも私たちがめげずに日常の中で楽しみを見いだせたのは、この仲間たちで「一致暖結」してきたからだと思います。私たちの3年間は数々の制限があり、やりたかったことがすべて実行できたわけではありません。しかし、目標を達成する過程で得た気付き、経験・準備する過程での新しい気付き、仲間とのつながり、それら全てが私たちを成長させてくれました。
- I** 暖かい心をもって、一人一人が「一致暖結」してともに歩み、多くの困難を乗り越えてきたことは、私たちの胸に深く刻まれています。これから先、私たちにどのような運命が待ち受けているのかはわかりません。しかし、この学校で仲間とともに過ごした日々が、どんな苦難も乗り越える力をくれたように思います。
- M** 様々な制限がある中でも、いつも私たちのことを考え、支えてくれた先生方。本当にありがとうございました。
- I** 進路決定や普段の生活の中で、いつも私たちのそばにいて辛いときも、不安なときも、親身になって支えてくれた家族。ありがとうございました。
- M** そして、辛いときも楽しいときも、ともに過ごした仲間たち。みんなと過ごした日々は、すべて私たちの宝物です。ありがとう。
- I** 最後に、若松中のますますの発展を祈りまして別れの言葉といたします。
- (卒業生代表 **M** _____、 **I** _____)



卒業式直前の一週間、新型コロナウイルス感染のリスクを極力減らすため、3年生は、急遽、短縮日課に変更していました。卒業式の練習は、学級別に1～2回していましたが、学年全体で集まって練習をしたのは、前日の30分程度だけでした。ほぼ、「ぶつつけ本番」に近い状態での卒業式でしたが、それでも卒業生は立派な態度で巣立っていきました。3年間の学校生活で「一致暖結」や「ABC」等の力を、着実に身に付けてくれていたということもありますが、卒業生の式に向ける意気込みがそれほど高かったということなのでしょう。感動しました。

卒業生の皆さん。卒業おめでとう。そしてありがとう。